

# 萌葱

第五十四号

図書部

発行日  
R1.12.11

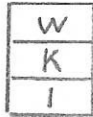
責任者  
植田・徳井・清原

こんにちは。図書部です。

とても久しぶりの『萌葱』となりました。今回のテーマは『冬』です。冬休み、そこまで長くないですが、十二月六日から貸し出し冊数の上限がありません。勉強の間などに読んでみてくださいね。

『君の名は。』

新海 誠 著



この本は東京都に住んでいる立花瀧という男子高校生と岐阜県の田舎に住んでいる宮水三葉という女子高校生の体が入れ替わってしまうところから話が始まります。

この本の作者は、今年度「天気の子」で話題になった新海誠さんが書いています。

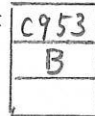
ある朝、瀧が起きると女性の体になっていたり一方で三葉も男性の体になっていました。

その後二人は何度か入れ変わり、ある日、彗星が二つにわれ、三葉の住む糸守町に彗星の片割れが落下します。しかし、彗星が割れることを知った瀧は三葉や、三葉の友人を守るため、もう一度三葉と入れ替わり、結局誰一人死傷せずすみしました。そして数年後、ふたりは、東京のある場所で見会います。

瀧と三葉の出会いと冒険に引き込まれる、読者も一緒に冒険できる本で、お勧めです。

『アーサーとミニモイたち』

リュック・ベッソン 著  
松本 百合子 訳



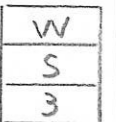
ある夏休み。十歳を迎えたアーサーは四年前に姿を消してしまった祖父の、自分宛のメッセージを見つける。それに記されていたのは身長二ミリの小さな種族、「ミニモイ」が棲む国への行き方だった。そこで、アーサーは祖父と祖父の隠した宝物を見つけるために「ミニモイ」の国へ行くことを決心する。果たしてアーサーは無事に祖父と帰ってくる事が出来るのだろうか？

このシリーズは全部で四巻あり、映画化されています。映画を見たことがある人もぜひ読んでみてください。



『賢者の贈り物』

オー・ヘンリー 著  
小川 高義 訳



一番賢くないかたちで、プレゼントを選んではしまった二人の幸せを描く「賢者の贈り物」、ツタの最後の葉が落ちたら自分は死ぬのだと信じてしまった若い女性に起こった奇跡を描く「最後の葉」など、百年もの間、世界中で読まれてきたオー・ヘンリーの作品から十個のお話を収録した短編小説です。特に、「賢者の贈り物」はクリスマススイブを舞台としたお話なのでぜひ冬休みにでも読んでみてくださいね。



『市立第二中学校2年C組』

10月19日月曜日

椰月 美智子 著

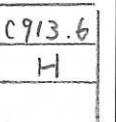
「朝は、いとも簡単にやってくる。しかし、連続のように思える日々も、新しい一日はそれだけで特別な一日だ。」

ある一日の2年C組の朝、学校に行く前から、放課後までの日常を一人一人の視点からえがかれている物語です。

友達関係などから、みんなの気持ちがわかりやすいので読みやすい一冊です。

『クリスマススイブの出来事』

星 新一 著



クリスマススイブの夜遅くにサンタクロースが入って来てその家の持ち主が猟銃を持って「いったい、おまえはだれだ」といつている所が面白かったです。なぜなら、「サ」

『すべて真夜中の恋人たち』

川上 未映子 著

人付き合いの苦手な主人公は、ある日突然人間関係に疲れて会社を辞めてしまう。それをきっかけにこれまでまったく関わった事のないものに関わってみようと出向いた先のカルチャーセンターである男性に出会う。何度も会ううちにその男性に惹かれていく主人公。

二人はどんな結末を迎えるのか。寒い冬日、のんびり読書したいときにオススメです。



へうらくブック



『コーヒーが冷めないうちに』  
川口 俊和 著

この物語のメインになる喫茶店、フニクリ  
フニクラ。

そこには伝説がありました。

それは、この喫茶店のとある席に座ると過  
去に戻れるという伝説です。しかし、戻れる  
のはコーヒーをいれてから冷めるまでのほん  
の少しの間だけ。それでも、過去に戻りたい  
4人が登場します。恋人、夫婦、姉妹、親子。  
様々な関係で、様々な気持ちでこの喫茶店に  
やってきます。最後の結末には、涙が止まり  
ません。

当たり前前の日常を大切に、後悔のないよう  
に過ごそうと思わせてくれる感動の一冊です。  
あなたならいつに戻りたいですか？



『綾志別町役場妖怪課』

青柳 碧人 著

かつて、ロシアで跳梁跋扈していた妖怪た  
ちが封じられている自治体が、北海道にある  
綾志別町というところにあった。その妖怪  
課職員となった秀也のもとに半年間の記憶を  
取り戻すきっかけとなった恋人である、ゆい  
が赴任してきた。

二人の関係がよそよそしくなる中、妖怪騒  
動が次々と起きる。壁をすり抜ける妖怪、捨  
ても帰ってくる人形、伊里菜をつけまわす  
怪しいフード男……

これらにかかわる帝政ロシア時代の秘密が  
明かされると同時に思いもよらぬ悲しい別れ  
が訪れる。



読みたい本はありましたか？

もし気になった本があれば

手に取ってください

